

みなさまこんにちは！令和6年は元旦の能登半島地震、飛行機事故と厳しい始まりとなりました。被害に遇われた方々には心からお見舞い申し上げます。この度の地震でも災害時の共助の力、情報発信の大切さを再認識いたしました。

今回は2月3日に行われた多職種全体研修会の報告と、病院連携室、地域包括支援センターの紹介をさせていただきます。



令和5年度 奈良市多職種連携全体研修会 開催報告

120名が参加され「栄養」について講演、シンポジウム、交流会を行いました！

★講演された先生方のお話を紹介いたします。

基調講演

「実例に学ぶ多職種連携のチームビルド ～栄養管理も含め～」

よきき往診クリニック 院長 守上 佳樹先生

コロナ禍の京都で医療・介護等の垣根を超えた多職種連携チーム、きさつ(KISA2)隊を立ち上げ、「どんな患者も断らず出向き診療すること」を信念に、地域医療を支えてきました。コロナが5類感染症になった後も全国29カ所の法人、組織を超えた多職種チームが連携しています。「栄養」の面でも歯科医師や栄養士等と連携し、オンラインや訪問で褥瘡の原因となる低栄養や誤嚥性肺炎のリスクの高い患者さん等の治療や指導に当たっています。多職種で関わることで、栄養状態の改善や食べる楽しみを持つことができた患者さんもおられました。多職種一人ひとりのスキルや経験を最大限に活かして目標を達成し、信頼し合えるチーム作りに取り組んでほしい、そして各地域が自主的に地域包括ケアシステムを構築し、他地域との連携も広げてほしいと考えています。

シンポジウム

「多職種連携で支えるその人らしい暮らし～在宅での口腔と栄養管理～」



在宅訪問栄養指導を開始して (管理栄養士 堀江 真規氏)

訪問指導を始めてから、間食が減り数値が改善した糖尿病患者さんや、低体重で嚥下障害、歩行困難な患者さんの体重が改善し、歩行可能になった事例があります。訪問指導は生活環境を観ることができ、本人もリラックスして会話が弾むため、普段の食事状況や生活状況がよくわかり、より生活に即した栄養や食事の提案ができます。

ぜひご相談ください。

オーラルフレイル・摂食嚥下障害の評価と リハビリテーション

(言語聴覚士 小瀧 美和氏)

嚥下機能は、食事姿勢、一口量、食事時間、食欲低下、むせ、声の変化、呼吸回数、咳の増加などを注意して観察しましょう。舌のトレーニングには、舌背の挙上運動や開口訓練があります。また、刻み食は気管に入りやすく、咳嗽力が弱い場合、誤嚥のリスクが高まる場合があるので、やわらかい形態やとろみでまとめた方がよいと考えます。

食べることは 生きること

オーラルフレイルと口腔機能低下症

(奈良市歯科医師会・吉田 栄介先生)

オーラルフレイルは早期の気づき大切です。舌の動きや状態、唾液量、残存歯数等を日頃から観察しましょう。「口から健康アプリ」というアプリもあります。

口腔機能低下症には義歯や補綴処置、舌接触補助床などの対応がありますので、おかしいと気づいたら早い段階で歯科医師に相談してください。

栄養ケアの現状と課題

～介護支援専門員の立場から～

(主任介護支援専門員 安場 裕氏)

「栄養」を導入しているケアプランは未だ少ないですが、本人の生活歴に着目し、嗜好や強みをケアプランに入れ改善した事例もあります。健康寿命延伸に対しての介護支援専門員が担う役割を認識し、食べることの大切さを根気よく伝えていくこと、「食」にはそれぞれのドラマがあり「本人の強みに働きかける視点を持つ」ことが大切です。

交流会

★基幹型地域包括より令和5年度の13包括の研修会等の取り組みについて報告がありました。

交流会では短い時間でしたが、久しぶりに顔を合わせての情報交換の場となりました！



当院は奈良市内唯一の精神科単科の病院で、70年以上の歴史があります。精神科病床374床を有し、関連施設にはデイケアセンター・相談支援事業所・多機能型障害福祉サービス事業所があります。県内唯一の宿泊型自立訓練施設を有しており、重度の精神障害者でも地域で自立した生活が送れるよう支援しています。

※当院には受診や入院の受け入れを調整する部署と、入院から退院へ向けた支援を調整する二つの部署があります。

地域医療連携室

地域の病院やクリニックと密な連携を図り、迅速に診察や入院を受けられるように努めています。その他 入院中の患者様の他科受診の調整をスタッフ4名で行っています。診察・入院は予約制とさせていただきます。ご依頼・ご相談は連携室にお電話下さい。必要な情報を聴き取りさせていただき、診察医を調整してできるだけご希望にそえるよう日時を決定しています。



医療福祉相談室

7名の精神保健福祉士が入院中の患者様を受け持ち、安定した地域生活が送れるよう、退院に向けたサポートを行っています。



当院の理念は「思いやり」です。年齢や疾患に関わらず、間口の広い医療で様々な相談に応じ、必要な方に必要なタイミングで精神科医療が提供できるよう、職員全員が一丸となり「断らない病院」「精神障害があっても安心して生活できる地域づくり」を目指しています。たくさんの人とのつながりを大切に、今後も連携・協力を努めたいと思います。

包括紹介コーナー

春日・飛鳥地域包括支援センター



奈良市春日・飛鳥地域包括支援センターは、春日中学校区と飛鳥中学校区を担当しています。当地域は近鉄奈良駅南側の観光客の多い“ならまち”や歴史好きな方がよく訪れる高畑・白毫寺地域、笹酒で有名な大安寺があります。細い路地や昔ながらの家屋、長屋があり戦前・戦後すぐから居住されている方も多ですが、市立奈良病院・済生会奈良病院を始め医療機関や公営住宅、UR都市機構の団地、スーパーやコンビニがあり生活に便利な環境のため高齢になってから転居してくる方もおられます。一方で交通の便が悪く買い物や通院が不便な地域もあります。高齢者人口10,775人、後期高齢者人口5,909人となっています(令和5年4月)。一人暮らしや高齢者世帯が年々増え、高齢者と障害のある家族の相談も増えてきています。コロナ禍後は、認知症やがんのターミナルの相談が急増しています。地域包括支援センターだけでは解決できないことも増え、基幹型地域包括支援センターや権利擁護センターへ相談することが増えていきます。また、相談内容によっては地域の皆様や他の相談支援事業所等と連携して支援しています。認知症カフェ(2ヶ所)は、当事者のみでなく認知機能の低下が気になる方や地域の介護支援専門員も参加してにぎやかに開催しています。今後も高齢者が住み慣れた地域で暮らせるように介護・福祉・健康・医療など様々な面から総合的に支援できるよう活動していきたいと思っています。

